

史跡中高瀬観音山遺跡 整備基本計画【概要版】

1. 中高瀬観音山遺跡の概要

富岡市中高瀬観音山・岡本北之根に位置する史跡中高瀬観音山遺跡は、鏡川右岸の標高 230mほどの丘陵上に立地する大規模な集落跡である。弥生時代中期から古墳時代後期までの各時期の住居があるなかで、弥生時代後期のものが圧倒的に多く、この時期に集落が急激に膨張し、直後に急速に衰退していったと考えられる。このような集落規模の変化と、柵、物見台の施設の設置は、北関東における弥生時代後期の拠点的な大規模集落の形成と、当時の社会状況を知るための貴重な資料として評価され、平成9年（1997）3月に国の史跡に指定された。

※写真（上段）中高瀬観音山遺跡周辺の航空写真
 ※写真（下段）中高瀬観音山遺跡頂部



2. 計画策定の経緯

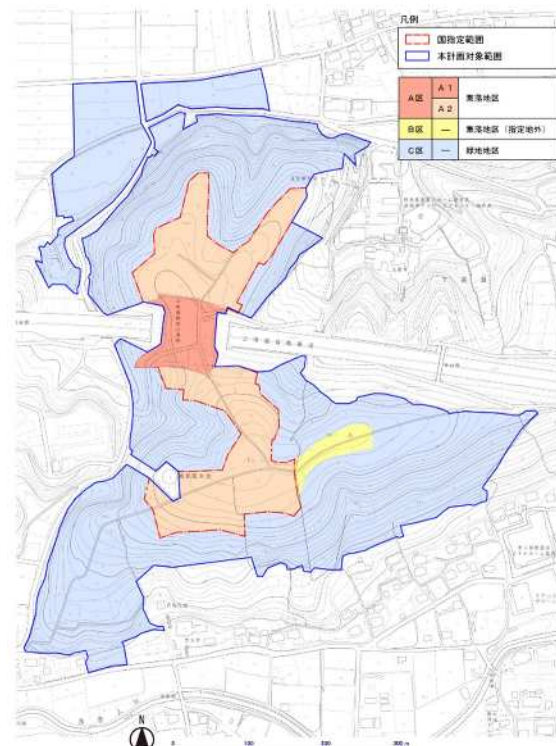
本遺跡は、平成元年度（1989）から平成3年度（1991）にかけて県埋蔵文化財調査事業団、県教育委員会及び市教育委員会により発掘調査が行われ、これらの調査をもとに、富岡市において「中高瀬観音山遺跡保存整備委員会」を設置し、平成5年度（1993）に基本構想、平成6年度（1994）に基本計画を取りまとめている。その後、平成11年（1999）に都市公園（約21.6haの都市公園で約4.7haの国指定の史跡部分を含む）として都市計画決定され、都市計画事業認可も取得し、整備を推進してきた。

しかしながら、現在は用地の買収を完了しないまま事業が中断しており、遺跡の公開・活用が十分に行われているとは言えず、遺跡の発掘調査及び計画的な保存管理・活用・整備等が求められている。このような背景から、史跡中高瀬観音山遺跡の保存活用に係る方針及び具体的方法を確認し、広く市民や関係者の理解を深めるとともに多様な関係者間で認識を共有し、円滑に各種事業を推進できるよう、指針となる計画として令和2年（2020）3月に史跡中高瀬観音山遺跡保存活用計画を策定した。この保存活用計画に基づき、本史跡を整備・活用していくための基本計画を定めることとなった。

3. 史跡の本質的価値／保存管理上の地区区分

史跡中高瀬観音山遺跡保存活用計画において把握した史跡の本質的価値は以下の4点であり、今後の整備や活用にあたっては、これらの価値を保存・継承していくことが重要である。

- ①独立した丘陵地形をよく生かして営まれた高地性集落で、弥生時代後期後半（倭国大乱から邪馬台国成立・展開期）の関東地方の社会状況を知るうえできわめて貴重な遺跡である。
- ②弥生時代後期に集中して造営された大規模な集落遺跡で、その発展過程を示す遺構分布がよく把握でき、この地域の拠点集落の一形態を示すものである。
- ③焼失住居跡の事例が豊富に存在し、弥生時代の住居構造を解明する新知見が得られている。
- ④住民主体の保存運動により、集落が良好に保存されている。



▲保存管理上の地区区分

4. 整備の基本理念と基本方針（※【 】は導入機能を表す）

【基本理念】史跡の価値を継承し、市民と一緒に魅力を育て、富岡の歴史文化を学ぶことのできる歴史公園

- 【基本方針】
- ①史跡を適切に保全し、その価値を次世代に継承する 【①歴史文化の保存・継承】
 - ②復元等の遺跡展示により、楽しく歴史・文化を学ぶことができる場を創出する 【②歴史文化の学び】
 - ③地域住民にとって身近で多様な活動が行え、特に地域の子どもが自由に遊べる歴史公園とする 【③交流】
 - ④地域住民が維持管理や運営に参画し、一緒に育てていく機会を創出する 【①歴史文化の保存・継承】【③交流】
 - ⑤周辺施設等の連携により観光資源としての魅力を高める 【③交流】【④観光】
 - ⑥周辺の自然環境や景観を保全し、地域性を活かした魅力ある空間を創出する 【⑤自然】

5. ゾーニング／導入機能／導入施設

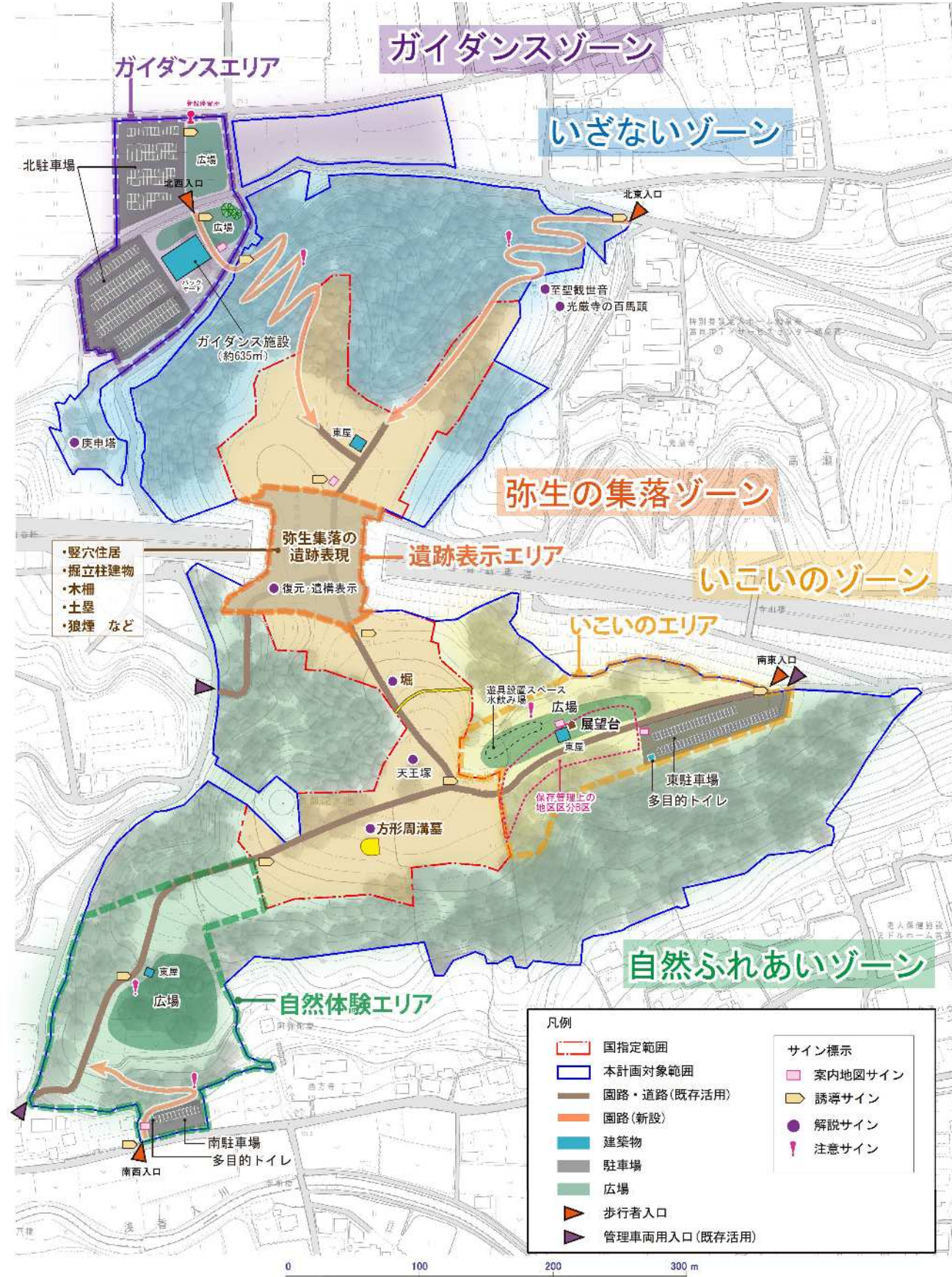
史跡の本質的価値を構成する要素の分布、敷地の現況、基本理念・基本方針等を踏まえ、計画地を5つにゾーニングする。整備は導入機能及び活用イメージ（体験）を踏まえることとし、各ゾーンのうち整備を行う主な範囲を「整備エリア」として設定する。回遊する園路が公園内の各整備エリアを結び付け、融合する公園とする。

ゾーン	ゾーン概要	導入機能	活用イメージ（体験）	導入施設
整備エリア				
ガイダンスゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 市街地や富岡ICに近く、まとまった平地となっている場所。 ガイダンス施設を配置し、現地見学の前後に歴史文化を学び理解を深めることができるゾーン。 	②歴史文化の学び ③交流 ④観光	<ul style="list-style-type: none"> ガイダンス施設の展示で中高瀬観音山遺跡の概要や価値について学ぶ。 ガイダンス施設の多目的室等でワークショップやイベントを開催する。 周辺施設の観光情報を発信する。 ガイダンス施設は日常的な維持管理の拠点としても活用する。 斜面を上げる遺跡頂部までの道のりで高地性を体感する。 	<ul style="list-style-type: none"> ガイダンス施設 展示室 多目的室 情報発信スペース 事務室（控室） 倉庫・備品室 収蔵室 駐車場 トイレ
ガイダンスエリア	<ul style="list-style-type: none"> 史跡の見学前後に、史跡の価値について学ぶことができるガイダンス施設を整備する。 駐車場を整備する。 			
いざないゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 公園のエントランスとして、期待感を高めながら史跡頂部へ至る斜面地。 高低差を利用し、丘陵地に立地する「高地性集落」という本質的価値を体感するゾーン。 百庚申や百馬頭等の民俗宗教に関わる歴史文化資源や本遺跡の特徴である高地性特有の眺望を体験できる。 	②歴史文化の学び ③交流 ⑤自然	<ul style="list-style-type: none"> 養蚕農家、光厳寺、百馬頭。百庚申等の歴史文化資源を見学する。 斜面を上げる遺跡頂部までの道のりで高地性を体感する。 	<ul style="list-style-type: none"> 園路（新設） 見学対象となる歴史文化資源に関する解説板
弥生の集落ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 史跡指定範囲全域で、史跡頂部の比較的平坦な土地から成る場所。 特に高速道路上部のエリアから遺構や遺物が多く出土しており、復元や遺構表示を行い、最も弥生時代を感じられるゾーンとする。 史跡指定地であるため地下の遺構を確実に保存することを基本とする。本質的価値の公開活用のために必要な整備を行う場合は、遺構への影響に配慮し、保護のための措置を図る。 	①歴史文化の保存・継承 ②歴史文化の学び ③交流 ④観光 ⑤自然	<ul style="list-style-type: none"> 遺跡頂部の遺跡表示により、現地でしか理解することのできない規模感や臨場感を体感することで、歴史文化を学ぶ。 遺跡頂部の眺望を体感する。 	<ul style="list-style-type: none"> 復元施設 遺構表示 解説板 安全柵
遺跡表示エリア	<ul style="list-style-type: none"> 高速道路上部の遺構・遺物が多く出土している範囲に、遺跡表示、部分復元を行う。 弥生の集落を俯瞰的に見学することのできる展望台等を設置する。（史跡指定地外） 			
いこいのゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 緩やかな斜面地で開けた場所。 歴史文化に限らず、地域住民の日常的な利用を想定した現代の公園として活用するゾーン。 弥生の集落ゾーンを俯瞰できる展望台や解説板を設置することで、弥生の集落ゾーンとのつながりをもたせ、公園利用者にも歴史文化に関心をもってもらうきっかけとなるゾーンとする。 一部に遺構が確認されている土地（保存管理上の地区区分B区）を含んでおり、今後再調査も含めた検討が必要であることから、整備にあたっては配慮する。 	③交流 ⑤自然	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの遊び場として、地域の子どもたちや親子づれにとって身近な公園としてにぎわう。 地元の方々の散歩コースとして活用される。 弥生の集落ゾーンを俯瞰できる展望台や解説板を設置することで、弥生の集落ゾーンとのつながりをもたせ、公園利用者にも歴史文化に関心をもってもらうきっかけとなる。 天王塚の解説を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 広場 遊具 展望台 解説板 駐車場 トイレ
いこいのエリア	<ul style="list-style-type: none"> 南側は、住宅地が近いことやまとまった開けた空間があることを踏まえ、公園のレクリエーションとしての利活用を図ることを想定した整備を行う。駐車場、広場、展望台、遊具等を整備する。 			
自然ふれあいゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 敷地南側の緑に囲まれた場所。 既存の植生を活かして自然と触れあえる場所として活用するゾーン。 	③交流 ⑤自然	<ul style="list-style-type: none"> 管理された植生のなかで、自然を感じる体験ができる。 植物観察や虫取り等、自然に関するワークショップやイベントの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 樹木を活かした空間や広場 駐車場 トイレ
自然体験エリア	<ul style="list-style-type: none"> 起伏のある地形や既存の植生を活かした整備を行う。 駐車場、広場等を整備する。 			

6. 整備基本計画図（整備イメージ）

整備においては、地形や自然環境、既存施設（出入口や道路・園路等）を活かすことを基本とし、景観や眺望を考慮した施設配置とする。また、市街地や広域のアクセスに配慮しながら、北・南の両側に出入口を設置するとともに、公園中心部までのアプローチを確保し、公園全体を回遊できる園路を設置することを基本とする。

また、整備においては史跡中高瀬観音山遺跡保存活用計画の地区区分と整合をとり、遺構や遺物が確認されている区域（保存管理上の地区区分A区・B区）には本質的価値の公開活用に必要な施設以外は原則として設置しないこととし、整備を行う場合は地下の遺構の保護を図る措置を講ずることとする。



7. 整備する施設

導入施設		規模・数量
管理施設及び便益施設	駐車場	北駐車場 東駐車場 南駐車場 ・一般車両 180台 ・車椅子使用者用車両 4台 ・大型バス 3台
	トイレ	ガイダンス施設 東駐車場 南駐車場 ・女 4、男 2・小3、多1 ・多1 ・多1
	水飲み場	— ・1箇所
	休憩施設	東屋（ベンチ等含む） ・3箇所
	新設園路	— ・3箇所
	管理用通路	—
	照明	— ・適宜設置
	転落防止柵	— ・適宜設置
	サイン標示	誘導サイン 案内地図サイン 注意サイン ・適宜設置
	公開・活用のための施設	ガイダンス施設
遺跡表現（復元整備、遺構表示）		— ・（全体）約 635㎡
サイン標示		解説サイン ・適宜設置
広場		— ・3箇所
展望台		— ・1箇所
遺跡表現（復元整備、遺構表示）		— ・（全体）約 635㎡
サイン標示		解説サイン ・適宜設置
広場		— ・3箇所
展望台		— ・1箇所
遺跡表現（復元整備、遺構表示）		— ・（全体）約 635㎡

9. 維持管理・運営

（1）維持管理・運営の基本方針

現在は、管理団体である富岡市が中心となり文化財保護や所管施設の維持管理を実施している。史跡の保存・活用・整備に関しては、富岡市教育委員会文化財保護課を中心に維持管理・運営体制を整備するが、今後の維持管理・運営にあたっては、本市関連部局の横断的な対応はもとより、関係する行政機関や各種団体が一体となった包括的な管理・運営を進めることが必要である。

- 管理団体である富岡市が、史跡及び計画地全体を適切に保存管理する。
- 実務は富岡市教育委員会文化財保護課が担い、保存管理と一体的な維持管理・運営を行う。
- 活用に関しては、文化財保護課を主管課として、各所管部署と連携して実施する。
- 日常的な維持管理・運営に関しては、その一部を民間団体に委託するとともに、協力・連携体制の構築を目指す。

8. 本質的価値を伝える整備

本質的価値	整備内容	
	現地での遺跡表現（復元・遺構表示）	ガイダンス施設での展示解説
① 高地性集落	・景観や眺望を阻害する樹木等は必要に応じて伐採等を行い、景観保全や眺望を確保する。	・地形模型により、丘陵地形や高地性集落であることを伝える。 ・展示解説等により、東日本で初めて発見された高地性集落であることを伝える。
② 軍事防衛機能	・軍事防衛機能の特徴が伝えられる遺構（現状で想定されるものとして狼煙、木柵、堀（環濠）等を復元する。）	・関連する遺構や出土品の展示により、軍事防衛機能の解説を行う。
③ 弥生時代の生活	・弥生後期後半を中心とした住居跡をできる限り遺構表示（平面表示）し、集落の広がりを示す。 ・遺跡表示エリアにおいて表現された弥生集落の様子を俯瞰的に見学できるように、展望台を設置（史跡指定地外）する。 ・方形周溝墓を復元（立体表示）する。	・現地での整備の対象は弥生後期後半を中心とするが、それ以外の時期についても集落の発展過程や変遷を伝える。（大規模集落が急速に膨張し終末に減少する様子、全期に渡る集落の位置関係の表現等）
	・弥生後期後半を中心とした時期に相当する竪穴住居を復元し、多様な住居形態の存在やその機能を伝える。 ・中央尾根の集落の様子、日常と緊張状態、戦時といった集落の状況について、変化をつけて展示する。	・竪穴住居や焼失住居等の構造、材料、出土状況等の展示解説を行う。 ・弥生時代の生活の様子を展示する。 ・中央尾根の集落の様子、日常と緊張状態、戦時といった集落の状況について、変化をつけて展示する。
④ 焼失住居	・焼失した竪穴住居を復元する。（上記の竪穴住居復元に含む。）	・焼失状況の模型を展示する。 ・部分的な住居構造の模型を展示し、断面等を示すとともに住居構造を解説する。
⑤ 保存活動	—	・保存活動の歴史や記録の展示解説を行う。

10. 策定スケジュール／事業プロセス

